（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平成３０年度　学校自己評価システムシート（県立庄和高等学校）

目指す学校像	国際社会に目を向け、地域に貢献し、社会で活躍できる人材を育成する学校

重点目標	1　主体的な学びにより、学習習慣を根付かせ、基礎学力の確実な定着を図り、学力向上に取り組ませる。 2　組織的計画的なキャリア教育により、目標の実現に向け努力を継続させる力を身に着け、行きたい進路の実現に挑戦させる。 3　活力ある学校生活により、責任感、社会性、主体性、協調性を涵養し、心身の健やかな成長を図り、目標を達成する経験を積ませる。 4　効果的に地域・保護者と連携し、協働をすすめながら、各種教育活動に取り組む。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　８名
　　生徒　３名
　　事務局（教職員）　１５名

学校自己評価

年度目標

年度評価（　2　月　1　日現在）

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・基礎学力の定着を目指した、アクティブラーニングを基本とした授業スタイルは昨年度までで概ね確立することができた。今年度はさらにこれらを定着できるよう授業展開などを工夫することが必要である。また、多様な生徒のニーズに対応できる、個に応じた学習指導についての、様々な取り組みが必要である。	①授業展開の工夫についての検討・実践が進んだか ②個に応じた学習指導についての検討・実践が進んだか	①アクティブラーニングなど授業展開の工夫を発展させるため、各授業の的確な評価基準や授業レベルの設定について検討する。学力向上委員会の授業アンケートなどを活用し、検討のための情報収集・分析を進める。成績評価の方法についての検討を進める。 ②昨年につづき、学習ヘルプデスクを利用して家庭学習課題を提供する。 ②学力向上にむけた様々な方策を総合的に分析し、学習指導の改善に役立てる。 ②１．２学年は、文章構成力を高め、入試にも活用できるようにするために、「表現トレーニング」を実施する。また、「朝学習」の積極的な取り組み、「漢検」「英検」に向けて意欲の向上を図る。	①各種アンケートにより情報収集し、分析した結果を職員会議、教科会などに提供することができたか。また、現在の成績評価の方法について検討を加え必要な改善ができたか。 ②定期的・継続的に課題を提供し、生徒の家庭学習を促すことができたか。 ②取組の分析により、教科の特性を生かした学習指導を行うことができたか。 ②自己の進路希望をかなえていくための道筋を示せたか。効果的継続的な補習が実施できたか。	①授業展開の工夫については、学力向上委員会を中心に公開授業、教科内研修を実施し、AL手法を取り入れた研究授業を10数名が実施した。生徒アンケート結果は職員会議で共有し、各教科で分析することができた。成績評価方法についても、生徒の実態等を考慮し、欠点に関する申し合わせ事項を改善した。 ②個に応じた学習指導については、学習ヘルプデスクを活用し、定期考査前の利用は良好であった。10分前登校の朝学習が浸透し、習慣化することができた。表現力の育成に関しては、35%の生徒が大きく進歩したと実感し、80%以上の生徒が進歩を感じていた。検定指導も各教科で力を入れ、特に漢字検定では、昨年度約15%の合格率から約23%の合格率へと上昇した。	B A	・各教科の学力向上のための分析は進んできたので、学校全体として授業展開の工夫をさらに実践したい。特にプロジェクタとタブレットを活用した授業を推進する。そして教育目標を踏まえたカリキュラムマネジメントを確立し、庄和VISIONとして示したい。 ・アンケート結果からも定期考査前以外の家庭学習は改善の余地があった。学習ヘルプデスクの活用方法を見直し、生徒が利用しやすい方策(引出型・見える化等)を実践する。 ・朝学習は習慣化したが、学習の中身や生徒の意識付けを改善したい。そのために教員が共通認識を持ち、目的化した朝学習とする。 ・検定を受験する教科が増えてきた(調理、情報処理等)。効果的に検定を利用し、多くの生徒に受験の機会を与え、自信を持たせたい。
2	・「進路指導計画」に沿って新たな進路行事を企画運営することができた。「行きたい進路への挑戦」をさせるため、今年度はさらに系統的な進路指導を進める必要がある。また今年度から、台湾・オーストラリアとの姉妹校交流が始まる。国際社会に目を向けた人材の育成のため、より効果的な交流計画を立案する必要がある。	①系統的進路指導についての検討・実践が進んだか ②グローバル教育についての検討・実践が進んだか	①進学希望者に対しては、１学年から補習や模試の実施など計画的に取り組んでいく。また、２学年の修学旅行後からは、自分の進むべき進路分野の意識付けをさせ、３学年の９月までに全７回の分野別ガイダンスを実施する。 ②台湾・丹鳳高級中学及びオーストラリア・メリーボロー州立高校と姉妹校協定を結び、生徒同士が交流できる機会を設ける。	①３学年の進路決定率を少しでも引き上げられたか（96.5%以上）。 ①分野ごとに細やかでかつ適切な指導ができたか。 ②台湾・丹鳳高級中学及びオーストラリア・メリーボロー州立高校と、姉妹校協定調印式を行ない、歓迎セレモニー・日本文化体験などを通して生徒同士が交流できたか。	①系統的進路指導については、分野別に計画を立てて指導することができた。県立大学や公募推薦での合格者、公務員も2年ぶりに2名の合格者(警察・消防)を輩出することができた。進路満足度は78%。また、2月1日現在の進路決定率は95.7%であった。一般入試の結果が今後出るので、さらに率は上がる。 ②グローバル教育については、台湾とオーストラリアの高校と姉妹校提携を結ぶことができ、また2校を受け入れ、セレモニー等を行うことができた。生徒も英語や通信機器、ボディランゲージを駆使し、コミュニケーションを積極的に図れた。	A A	・「入(はい)れる」進路先から、「入(はい)りたい」進路先の目標に一歩づつ近づいてきたが、進路決定率100%を達成したい。そのために個別面談等を毎学期設定し、生徒理解に努め、進路意欲を掻き立て、主体的な進路活動を推進する。目標は進路満足度85%以上。 ・来年度台湾修学旅行5年目に突入する。修学旅行先で探究活動を実践し、実りあるものにする。オーストラリアのメリーボロー高校と姉妹校提携を結んだことにより、来年度希望者を対象にオーストラリアへの短期研修を計画し実践する。国際交流委員会を新設する。
3	・学校行事などにおいて、生徒会生徒が中心となって企画運営に積極的に携わる雰囲気ができてきた。より活力ある学校生活を送らせ、努力して目標達成する経験を積ませる必要がある。	①学校行事などにおいて、多くの生徒が企画運営できる機会を設けられたか ②部活動・生徒会活動が活性化したか	①生徒会主催行事に、個人だけではなく、多くの委員会、部活動の生徒も運営にかかわる機会を設けていく。 ①行事内容の見直しを行い、生徒が主体的で積極的に参加、活動できる行事を企画、運営する。 ①委員会の活性化をはかり、挨拶運動や地域ボランティア、活力ある学校目指した委員会活動内容を考える。（企画） ②生徒会活動の精査、見直しを行い、委員会や部活動に任せられるものは任せる。 ②面倒見のよい部活動を目指し、未加入生徒減少を目指す。 ②部活動の活動場所、施設の確保と改善。部活動の活動時間と週当たりの活動日数の適正化。	①各行事後にアンケート（生徒と教職員）を実施し、委員会や部活動の生徒が運営に関わる機会を設けられたか。 ①改善点やクレームの内容を検討し、生徒が主体的で積極的に参加、活動できる行事を企画、運営できたか。 ②生徒会行事後にアンケート（生徒と教職員）を実施し、委員会や部活動に積極的に依頼し、協力できる体制を構築できたか。 ②学期ごとに行われるアンケートの中に部活動や行事に関する質問項目を入れて満足度を含む調査を行い、改善を検討できたか。	①学校行事などにおいては、各学期にある学年行事は生徒が主体となり球技大会を実施・運営し、種目選定から審判活動まで生徒が協働して行い成功を収めた。委員会活動では風紀委員会であいさつ運動を年3回実施するなど、アンケートから挙がってきたものを精査し、改善に繋げた。 ②部活動は各部活が活発化してきたが、スポーツ庁の方針もあり、1月から活動の適正化に努めた。また休養日を効果的に活用しモチベーションＵＰを心掛けた。生徒会活動は特に文化祭で生徒が中心となり、学校探検動画や中庭ダンス発表など、趣向を凝らした企画を考え実践し内外から評価を得た。	A B	・生徒がさらに主体性を持てるよう委員会の活性化や行事の見直しを行っていく。そのために生徒だけで活動案を考察できる時間を確保させたい。 ・部活動は活動の適正化をさらに推進すると同時に、活動が少ない部活動の適正化も図りたい。そのためには各部活動で、魅力ある取組を考え、生徒や保護者に示し理解を深めたい。 ・学校行事も生徒が主体となることは継続していき、さらに外部への発信を強化していき、本校の魅力を外部関係者へも広めたい。生徒や保護者の満足度を数値化し、公表したい。
4	・昨年度は、地域・同窓会・PTAと協働した進路企画を新設することができた。今年度はさらに、前述の重点項目に対応するプログラムを、地域・保護者と協働して進めることが望ましい。また、保護者などへの情報提供の方法を工夫して進める必要がある。	①地域との連携・協働についての検討・実践が進んだか ②保護者への情報提供・協働についての検討・実践が進んだか	①総学LHRの時間において、３学年では地域の諸問題に対する探究活動を実施し、活動を通して地域と連携する。そのため、１・２学年には、身近な課題を対象に探究活動の技術を習得させる。３学年には、春日部市役所と連携して地域の諸問題を提示する。 ②保護者対して、HPやメールシステムなどのツールを活用し、公開授業、保護者会など学校に来校する機会についての情報量を増やす。また、生徒の家庭学習の定着について、家庭と協働して取り組める方法を検討する。 ②「職業を知る（進路行事）」実施に向けて、ＰＴＡ・同窓会との連絡調整を図る	①３年次に地域と連携が取れるように、３年間の実施計画が作成できたか。 ①潤滑な探究活動ができるように、効果的に地域の諸問題を提示できたか。 ②保護者が本校HPを見る回数が増えたか。メールシステムを利用した情報提供が増えたか。家庭学習の定着に向けた家庭との協働の方法の検討が進んだか。 ②「職業を知る（進路行事）」実施に向けて、ＰＴＡ・同窓会との連絡調整が図れたか	①地域との連携・協働については、探究活動3年間の実施計画が作成できた。今年度は1年生がNPO法人カタリバ、2年生は㈱教育と探究社、3年生はかすかべ未来研究所と連携し、地域の諸問題を提示し、生徒が探究活動を実践できた。 学校地域WIN-WINプロジェクトでは、生徒有志代表を中心に庄和商工会と連携し、探究活動を実践し、県主催のフォーラムに参加し、活動を発信できた。 ②保護者への情報提供・協働については、各学年が学年通信を月1回を目安に発行した。HP閲覧数も1日平均700件を超えた。 「職業を知る座談会」は関係各所と連携を図り、40名の講師に参加していただき、職業観を得た。	A B	・地域との連携は、探究活動を基盤としてさらに関係を深めたい。実施計画が固まり、中身が問われるので、インターネットを活用するだけの机上の空論ではなく、足を運び、実地調査・体験を多く試み、エビデンスを示したい。 ・HPの閲覧数が増えたが、更新されていないページも存在していた。最新の情報を提供できるよう1日1回更新を目標に職員全体で発信していきたい。 ・メールシステムも年度後半より月1回配信したが、保護者の要望はもっとあるようなので、必要に応じてさらに情報を発信していきたい。

学校関係者評価

実施日　平成 31 年 2 月 13 日

学校関係者からの意見・要望・評価等

・落ち着いた雰囲気で授業が進められていた。積極的な姿勢で受けているのが印象的であった。
・授業風景を10年近く見ているが、10年前はレジュメを配って授業を進めていたが、今はみんなで授業を作っている。環境は清掃が行き届いており、みんなで勉強する環境を作っていることが分かった。
・全教室にプロジェクタが設置され、活用している授業もあり、進化していると感じた。隣や周囲の生徒と相談している感じもよかった。数学や英語は少人数制の授業展開で、指導が行き届いていると感じた。
・机の上が整理整頓されていて、当たり前のことがしっかりとできていた。
・ICTの活用が進められていた。分からないことをその場で質問できる雰囲気があり良かった。
・授業の姿勢は良かったが、ある生徒の言葉遣いが気になった。社会に出る前にしっかりと教育してほしい。授業に対する姿勢が良くない生徒も一部にいたが、ダメなものはダメと指摘してほしかった。

・進路の結果が全体的に良かったと感じた。これも先生方の指導によるところが大きいと感じた。
・中学校から見ると、最近は専門学科の高校を志望する生徒が多くなってきた。庄和高校はバラエティーに富んだ多岐にわたる進路実績があるので、これからも生徒のニーズに応えたバラエティーに富んだ進路指導を継続していただきたい。それを周辺の中学校にＰＲしてほしい。
・生徒目線から、テスト前は放課後に残って教えてくれる先生が多いので、進路に役立てられていると思う。

・１年間を通して生徒が主体的に活動していることを感じた。
・保護者アンケートでは、「文化祭は盛り上がらない」という意見があるが、生徒は一生懸命に取り組んでおり、もっと良くなると感じている。
・バスケットボール部男子が県の新人大会に３位に入ったり、野球部も久しぶりに県大会に出場するなど、人数も増えてきて体のケアをしながら育ててくれているので、これからもっと期待している。
・ロードレース大会を２月に日程を変更し、どうなることかと思ったが、先生方の取組も感銘を受け、生徒もみんな頑張っており非常に良かったと感じている。
・男子生徒が女子生徒に比べて元気がないように感じているので、もっと元気な男子生徒を育てていただきたい。

・春日部市役所として探究活動に協力してきた。地域のことを自分たちで調べて考えて、その中で見えてきた問題について解決しようという試みは非常に良かった。引き続きこの取組は継続していただきたい。
・ホームページから生徒が頑張っている様子を感じられた。部活動のページ更新も部によって差があるので、どの部も頻繁に更新してほしい。
・「職業を知る座談会」は改善の余地があると感じた。目的を講師に事前にしっかりと周知してほしい。また、講師の反省会や振り返りをする機会を設けてほしい。生徒の希望をすべて集約するのは難しいので、卒業生の力を借りる必要が出てくると思う。子供目線で講師を呼べるようにしてほしい。地域密着型の学校なので、連携をうまくできればと思います。